



夏に大きな期待!! '89 朝レ 3位

毎年恒例の朝日レガッタが5月2, 3, 4, 5日の4日間にわたって琵琶湖漕艇場で行われ、対校エイトは、早稲田大、東レにはわずかに及ばなかったものの、見事3位入賞を果たしました。またS.Fが6位に入賞、そのほかのクルーも健闘しました。新体制下で昨秋から例年にないハードトレーニングと練習量を積み重ねてきた成果は確実に現れてきています。夏の関選、インカレ、全日での我が同志社の活躍が今から非常に楽しみにです。

対校 朝レ レース回想

〔決勝〕

5日午後、1レーンから立命、阪大、京大、東レ、同志社、早大。決勝戦にきてついに、東レ、早大と顔を合わせる事になった。予選のタイムは1位から早大2分55秒、東レ56秒、同志社57秒と充分逆転可能な射程距離内である。出艇。応援団の同志社チアーに送られた我々の頭を去来したことは、やはりあのつらかった春の漕ぎ込みであろう。東レにはもちろん、早大にも負けないくらいの練習量は我々に自信を与えた。その自信と打倒早大、東レにかける闘志をオールに伝えながらスタート地点へと向かった。そしていよいよスタート。やはり早大、東レが飛び出したが、その差はわずか、同志社もなかなか良いスタートを見せた。ところがスパートからコンスタントへのセトルダウンもスムーズに行き、早大、東レに追いつき、まさに並ぼうとしていた時だった。悪夢のようなことが起こったのは。漁船の波をかぶって艇が止まってしまったのだ。早く立ち直らさないと、という焦りが事態を悪化させた。まさかの事態にオロオロするばかりで、すぐには立ち直らない。前を見ると審判艇だけ。早大、東レは波などモノともせず、どんどん進んでゆく。しかし、ここであきらめてはと、立ち直りかけた直後から足蹴りの連発。もう去年までの繰り返しは御免だという思いで、漕ぎに漕ぎ、蹴りに蹴った……あとは訳のわからぬままゴール。悪夢から覚めた気分だった。

レース後、手にした銅メダルを見て、あの波さえなければという悔しさとあれからよく3位がとれたなという思いで、複雑な心境だった。しかし、早大、東レのあの横波をモノともしない、こころの勝負強さと言うか真の実力みたいなものを見せつけられ、また、自分たちの未熟さを思い知らされたレースだった。関選、インカレでこの雪辱を果たすためにも、また1から出直してある。

〔予選〕

5月3日の午後からスタートのはずであったが、強風と波で中止。4日の朝に順延された。予選の相手は京大、



岡大。練習量に裏付けられた自信を持つ我々にとって、恐くない相手である。そしてスタート。懸念されていたスタートではあったが、終始トップを走り、タイムも2分57秒とまざまざのレースであった。

〔準々決勝〕

同日午後、前日同様の最悪のコンディションではあったが、予選3位の好タイムからか、オールメンの雰囲気は明るかった。相手は京大Jr、阪大とこれまた恐るるに足らぬ相手である。ところがスタートでオールを波にとられ、その京大Jr、阪大に先行されてしまう、が、リズムに乗り出してきた500m付近で京大Jr、をとらえ、さらに、勝負時の足蹴りが効を奏し、阪大をも抜きにかかった。結局、ゴールした時には逆に阪大に半艇身の差をつけて、これもまた1位で準決勝進出を決めた。

〔準決勝〕

5日朝、(相手は立命、九大、阪大)。組合わせよく、決勝進出は間違いなかった。しかし、決勝につなげるためにも基本だけは忘れないような漕ぎを目指した。スタート、スパートと横一線の状態であったが、自信のあるコンスタントで他をつき放し、そのままトップで決勝へと駒を進めた。

横山新監督のあいさつ

本年度より監督を承りましたS.47卒の横山でございます。

S.52卒の山口、S.61卒の中村両君にコーチングスタッフに入ってもらい、何度もミーティングを重ねた結果、現状を打破し、常に勝てる可能性のあるクルーを作るには、まず基本に戻った練習をしなければならぬ。という事で意見が一致しました。まず第一に、体が一番強い足を使って漕ぐ(足だけで漕ぐ)、そして第二に、他校よりも多くの練習量をこなす。今年度はこの二点を前面におしだし、昨年の秋より練習してきました。学生達もそのことを理解し、正月休みもそこそこに、ずっと合宿を行ってきました。何よりも心強く思ったのは、学生達がそれぞれの立場を理解し、与えられたポジションで精一杯やってくれている事です。特に4回生では、マネージャーをはじめ、対校に乘れなかった者たちが、トレーナーとしてジュニア、フォアに乗り、下級生の指導にあたってくれている事です。

先日行われた朝日レガッタにおいても、ジュニアクルーが3分03.29秒、フォアが決勝進出という頑張りを見せてくれました。対校クルーも早稲田、東レには及ばなかったものの、2分57.29秒のタイムをだしてくれました。夏のインカレ、全日本を目指す我々にとっては、練習の一環として出場したレースでありますので、優勝はできなかったもののそれなりの手ごたえを感じております。

これから学生達と共に、我々スタッフも勉強しながら、基本に忠実に、そしてどこにも負けない練習量をこなす、ボート部員全員で栄光の同志社大学ボート部を築きあげたいと思っております。

最後に、OBの方々をお願いなのですが、皆様お忙しいことは存じますが、時間の許す限り瀬田に足をお運び下さいますよう、よろしくお願い致します。

力を出しきれず！ Jr.E

昨年の10月から練習を開始し今年、1月4日から乗艇し、部全体が新しい1ページを切り開くため練習に打ちこんできた。乗艇においては、キャッチから足でストレッチャーを押すことなどに重点をおき、陸トレでは、油圧式の器具を使用したりして、練習量においては、他にひけをとらないものがあつたと思う。

朝日レガッタ、第1日目は、高い波のため、中止され、第2日目に、予選・準々決勝ということになった。

予選・午前八時半頃スタート・同志社艇友会は、第1レーン・コンディションは良好・対戦相手は、九州大学、静岡大学、大阪工業大学対校とJr。スタート、緊張したためかうまくのれず、300メートル過ぎからようやく艇速がのびはじめ、九州大学との争いとなった。結果として、3分3秒でゴール、2位であった。その差、約1秒、勝つということへの気持ちが、最後でくずれたのか。

準々決勝、同日午後4時頃スタート、第4レーン・コンディションは、強い横風のため最悪、対戦相手は、宮崎大学、広島大学、東レ滋賀、滋賀大経済。予想通り東レ滋賀は、好スタートを切り、ぶっぎられた。残る4艇の争いとなった。500メートルを過ぎ、宮崎大学に1艇身以上あけられていた。

700メートルを過ぎたあたりから、スパートをかけぐんぐん加速、900メートル付近で、宮崎大学をさした。しかし、残りわずかなところで再びさされ、0.2秒差で3位となり、準決勝へは進めなかった。相手が1レーンであったため、500メートル過ぎのことは、全くわからなかった。

3回生がほとんどのこのクルーは、まだまだ可能性はある。結果はそれとしてうけとめ、向上心をもって、前向きに考え、漕ぎたい。

(3回生 Jr.E 乾 健治)



大健闘 S.F 奮闘 S.S 軍団

「とにかく基本練習を」私がこのクルーを預かってから考え続けたことである。新人は勝つために試合に出るのではなく基本を磨き、経験を積んで対校に上がったときに勝てるようにするためのステップであるという考えの基に練習を積み重ねてきた。内藤と私にとっては最後の朝日である。ややもすれば艇速のことばかりを考えてしまいそうになる気持ちを押し殺して2回生3人に基本を教え続けた毎日だった。パドルの漕ぎ込みなどたくでもできる状態ではなかった。ピッチを押さえた練習では試合前とは思えない艇速しか出ない。コックスは真っ直ぐに艇を操れない。「予選落ちするかもしれない」真剣に悩んだ。いくら2回生の中心のクルーといっても4回生が2人も乗っているのである。そんな無様なことはできない。いつものレースとは違うプレッシャーの中で予選に臨んだ。

5月2日、予選。追い風という苦手のコンディションであった。体力強化には成功した自信はあったが、追い風でしっかり水をつかむだけの技術はない。不安がよぎる。スタート練習などする余裕はなかったしスタートで出れるとは思ってなかったが10本で全クルーが視界から消えたのには驚いた。整調は、完全に舞い上がっているし、艇はガタガタ。しかし、コンスタントに入ってから足蹴り10本で艇は立ち直った。練習でも出たことのない程の最高のコンスタントで他のクルーに追いつく。1艇また1艇と差し、500m過ぎではいつの間にか2位に上がっていた。そしてまた足蹴り10本。追い風に完全に乗り、艇速は信じられないほど伸びた。700m地点でトップのクルーを捕らえ、1着でゴールした。予選通過タイムは、68クルー中3位という好タイムだった。予想外の結果に皆喜びを隠さなかった。

4日、準々決勝。瀬田漕艇クラブと三洋電気滋賀の社会人クルーを両側に迎えることになった。タイムでは3秒以上あいていたが油断は出来ない。スタートは予選同様、置いていかれたが、500m付近ではほとんど3艇並び、ゴール直前までどこが勝つかわからない展開だった。しかし、体力には自信があった我がクルーが1着でゴールした。

同日4時、準決勝。ここで2位以内に入れば夢にも考えなかった決勝進出である。後半で競り勝てる力は、春の陸トレで、誰もが一番嫌がる坂ダッシュを徹底的にやった成果であるのは間違いない話だが、予選と準々決勝を通じて、そのことに対してクルー全員が自信を持ってくれたのは心強かった。また置いていかれても決して諦めまい。全員がそう誓った。いよいよスタートである。スタートに全神経を集中させて後のことは考えずに行こうという作戦が功を奏し、いつになく良いスタートができた。しかし、400m付近でサイド負けのためか艇が大きく蛇行し、他艇に遅れを取った。1位の東レ滋賀には、大きく先行され、2位狙いに望みをつないだ。しかし、大阪市市立大と名大との差は、なかなか縮まらず、勝負はラスト200mにかかった。そこでスパートをかけ一気に両艇を差し、2着でゴール。決勝進出を決めた。

5日、決勝。正直に言ってしまうと、レースにならなかった。スタートは失敗し、レーン侵食寸前までいき、後半も落ちて来るクルーは1クルーもなかった。決勝レースで6位というのは情けない話だが、2回生にとっては良い経験になったと思う。このレースを土台にして、これから大きく育てて行ってほしい。

現在は、第3エイトを預かっている。夏まででどこまで出来るかわからないが、「とにかく基本を」をモットーに、まだまだ甘い1、2回生を、9月に中村さんにお渡し出来る人材に育てたいと思う。(4回生 S.F 石橋 雅信)

初めてのスカルレースと言うこともあって、予選はとても緊張したが、何とか無事通過でき準々決勝へと進んだ。準々決勝は2艇上がりである。予選タイムは4分22秒、これを通過するには3分台を出さなければならない。練習での自己ベストは4分01秒なのだから落ちて着いて漕げば何とかなる、そう自分に言い聞かせてレースに挑んだ。幸い予選のような力みは無く辛うじて2位に食いこむことができた。

準決勝までくると、もうとにかく精一杯頑張るしかなかった。今までの練習の成果を出し尽し悔いの残らないレースをしようと思った。静水無風という絶好のコンディションの中でレースは始まった。横に並んだ選手達を見てとにかく出来る限りついていこうと意気込んだ。スタートから全力を出し切る作戦で500mまでは1艇身以内の差で食いついて行ったが、力の差は歴然で600m辺りで力尽きどんどん引き離されて行った。ゴールまでが以上に長く感じられたのを覚えている。今回のレースで痛感したのは、技術の未熟さも然る事ながらそれ以上に基礎体力の無さである。これからも一つ一つ課題を克服し頑張っていこうと思う。(2回生 S.S 岡本 竜人)

シングルスカルで出場することが決まったのは3月中旬であった。試合までは2ヶ月足らず。不安ではあったが試合が近づくにつれ何とか漕げるようになってきた。準決勝進出を目標に練習に励んだ。

5月2日。いよいよ予選である。とにかく真っ直ぐ進まず何度でもブイに当てながら1000mを漕ぎ切り何とか予選通過、改めてスカルの難しさを知った。

5月3日準々決勝。当初の目的を果たすためには6艇中2位までに入らなければならない。予選のタイムから見ても厳しいレースが予想された。とにかくこの2ヶ月間練習してきたものを全て出し切るつもりでレースに挑んだ。そしてスタート。予想とは違って調子がよく前半から積極的に飛ばして行った。500mを過ぎて3位、2位の差は約1艇身であった。600mに差ししかかったとき、スパートをかけて勝負に出た。思った以上に艇速は伸び、800m付近で2位を捕らえ、さあラストを思った矢先にブイにオールを引っかけて大きく遅れてしまった。残り200mは惨々なもので結局3位、準決勝進出を果たせず試合は終わった。自分一人で考え、自分一人で漕ぐスカルはレースのしんどさと面白さを教えてくれた。また、技術、体力、精神力、どれを取ってもまだまだであるということを実感させられた。これからはスカルで得たことを生かして頑張って行きたい。(2回生 S.S 谷昌二郎)

第42回 朝日レガッタ 大会結果

対校エイト 第3位 (功力 田中 吉田拓 坂本 佐藤 宮崎 西田 榊原 三上)

Jrエイト 準々決勝敗退 (津嶋 山下 大竹 杉山 乾 重松 小原 畠山 吉田武)

S, F 6位 (下田 米山 石橋 内藤 小林俊)

S, S 準決勝敗退 岡本
準々決勝敗退 谷 宮脇 嶋本
予選敗退 小林重 勝本

新入部員紹介

1. 奥原利行 工学部化学科 愛知県立千種高校
ボートといえば、今まで観戦するスポーツでした。
そのボートを大学生になった今、漕ぐことができボートというものを実感している毎日です。みんなとの呼吸を合わせ、4年間励んで行きたいと思います。

2. 井上真樹 商学部 岡山県立玉島高校
イギリスへのあこがれみたいなのからボート部にはいった訳ですが、合宿所の大部屋の清潔さには絶句しました。それから、とりあえず頑張ります。

3. 原田昌彦 商学部 兵庫県立洲本高校
期待通り、楽しくて楽しくてしょうがない合宿生活。
このまま、ただ体が大きいだけでは終わりません!!
大学では一片の悔いも残さぬように……。

4. 井上賢二 経済学部 私立熊本商科大学付属高校
この充実したボート生活のなかで自分に磨きをかけていきたいと思っています。頑張ります。

5. 今井彰 商学部 西宮市立西宮高校
他の大学でボートをやっている友達が「おもしろい!」
というので入ってしまったが、高校、浪人を通じて運動とまったく縁がなく、声が大きい以外とりえがない私に未来はあるのでしょうか~(!!?)

6. 田村浩二 経済学部 大阪府立阿武野高校
私は、小学、中学、高校を通じて剣道にエネルギーをぶつけてきましたが大学では新しいスポーツをしようと考えそのとき頭にうかんだのがボートでした。少しでもボート部に貢献できるよう頑張りたいと思います。

7. 石口雄三 商学部 広島県立神辺高校
ボートはもともとやりたかったのですが、実際やってみて思ったよりきついというのが正直なところです。でも目標は対校で全日本選手権で優勝して、イギリス遠征することです。

8. 宇戸大輔 法学部法律学科 大阪府立東住吉高校
ボートは、僕にとって未知のスポーツですが、早くボートの本当の楽しさを知って、伝統の同志社大学ボート部の名前を汚さないよう一生懸命頑張ります。

9. 高橋渉 経済学部 同志社高校
朝起きるのがたいへんだと思いますが、根性で頑張りたいと思います。池のボートとはわけが違うと思いますが、あの気持ちよさは変わらないと思うので精一杯頑張ります。

合宿所にファックスが付きました

クルーと指導者との意見交換を密にするために、横山監督より機械の提供を受け設置されました。通常電話にも利用できますので、「合宿所の電話がいつも話し中」との苦情も解消されると思います。ボート部に関する情報は勿論、御意見、御指導に関することや、艇友の移動や艇友会に対する御意見、御投稿等におおいに御活用ください。(場所はマネージャー室の入口)

ファクシミリ番号 0775(43)1194

大型不用品歓迎

合宿所にはいつも40名以上が生活しており、日用品や洗濯機、自転車等が不足しております。もしこれらで不要の品(修理再生可能を含む)がありましたら御一報ください。特に洗濯機と業務用大冷蔵庫は大歓迎です。

今後の試合日程

- 6月10, 11日 中日本レガッタ (Jr.のみ) (愛知池)
7月26日 関々同立 (琵琶湖漕艇場)
7月29, 30日 関西選手権 (琵琶湖漕艇場)
8月24~27日 全日本、インカレ、オッズ
(戸田ボートコース)
9月3日~6日 国民体育大会 (網走湖)

編集後記

今年も朝日レガッタ特集号が例年のように発行がすっかり遅れ申し分けありません。夏の大会の特集号は出来るだけ早く発行します。あ~あ疲れた。

部報力漕

平成元年6月10日発行
発行 同志社大学ボート部
大津市瀬田3-2-30

<編集委員>

石橋雅信	田中隆一
乾 健治	杉山 伸
岡本竜人	谷昌二郎